

## 久留米大学の基本理念に基づく共通教育の基本方針（理念）

「人間性豊かな実践的人材の育成」を目指す久留米大学基本理念に基づき、「地域に貢献できる人材」を社会に送り出すためには学士課程教育における共通教育が重要であると認識し、各学部で展開されている専門教育とその基礎となる共通教育を連携させながら「人間力」育成に向けて推進していく共通教育の基本方針を示します。

「人間力」とは「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」です。久留米大学の学士課程において修得すべき「人間力」を「知る力」「行動する力」「思考する力」「実践力」「社会で生きる力」という5つの構成要素で捉えています。それらの力と相互関連しながら、共通教育科目を学修する課程において「学修基礎力」「コミュニケーション力」「共感的理解力」「自己統制力」を身に着けることを目指します。

学生の基本的生活の持続には、人間としての心身の健康が基盤となります。まず、社会や自身の課題に気づき、「知る力」をもって主体的に学びます。そして身体力を高め「行動する力」の基礎とします。大学で学ぶことの出発点に「学修基礎力」を備える必要があります。社会の現実を正しく理解するためには、「知る力」より得た知識をもとに自分で「思考する力」を深めねばなりません。また、社会の問題を解決するためには「行動する力」を「実践力」に高めねばなりません。その過程で、グローバルな情報化社会で他者との「コミュニケーション力」、「共感的理解力」や「自己統制力」を身に着けることが、豊かな人間性をもって「社会で生きる力」に発展します。

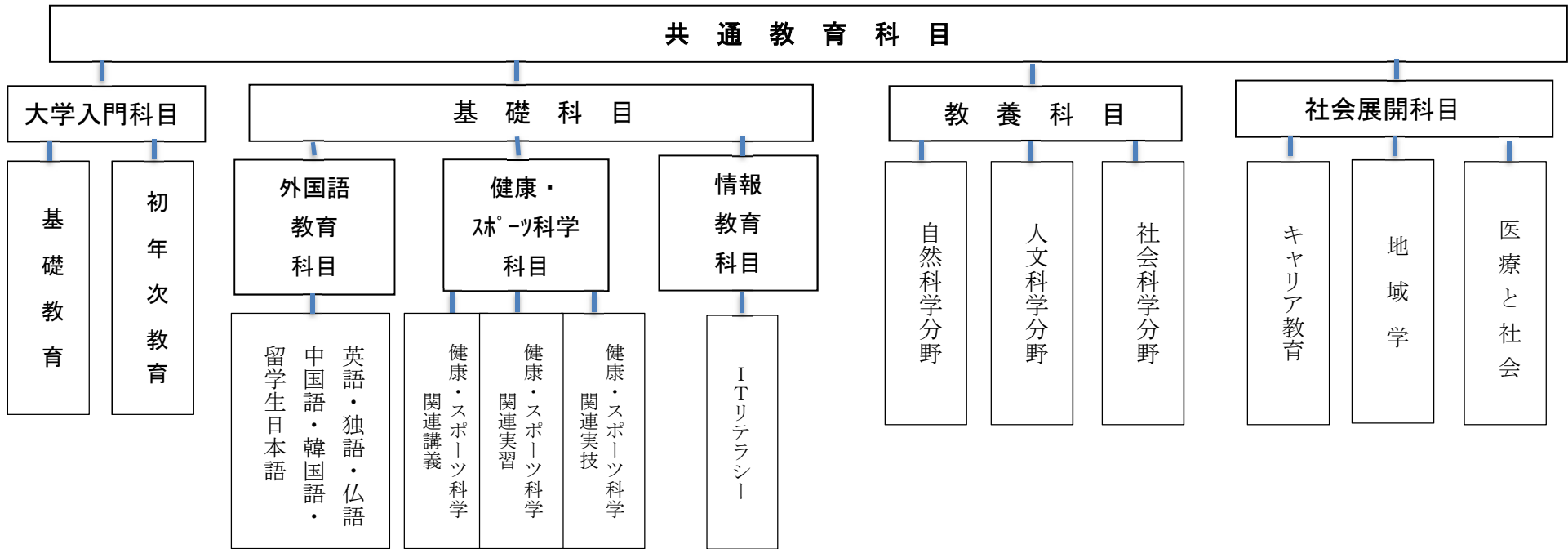
それは「人間力」の向上および久留米大学基本理念に基づく「地域に貢献できる人材」を社会に送り出すことにつながります。

### 「人間力」の構成要素

|            |   |
|------------|---|
| 知る力        | 分からないことについて「知りたい」と思い、意欲的に知識を得ようとする力。                                    |
| 行動する力      | 自ら前に踏み出す力。他者と協調し、積極的に働きかける力。  |
| 思考する力      | 課題を発見し、論理的に考え、知識・情報を運用して創造的に考え抜く力。                                      |
| 実践力        | 命題を行動によって結果に結びつける能力。その過程に交渉・折衝力、コーディネート力、実行力を伴う。                        |
| 学修基礎力      | 大学での「学び」の基盤となる読む力・書く力・計算力・話す力・語学力。                                      |
| コミュニケーション力 | 相手から発信された情報を傾聴して受け止め、その意味を理解し、それに対する自らの応答を正確かつ効果的に表現し、相手に向けて情報として伝達する力。 |
| 共感的理解力     | 相手の立場を思いやって正しく分かろうとする力。異文化理解力。  |
| 自己統制力      | 自らに向き合い、社会的ルールへの尊重と自己管理をする力。  |
| 社会で生きる力    | 状況を把握し、人とのつながりをもって、社会の一員としての役割を果たす力。                                    |

以上を総合した「人間力」とは「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」です。

# 共通教育科目体系図



## 〔大学入門科目〕

高等学校と大学との教育の接続を図り、大学での主体的学修の姿勢を身に着ける。

## 〔基礎科目〕

グローバル化・情報化に対応できるコミュニケーションツールとしての語学力と情報活用技術を習得し、自分の健康管理とスポーツに実践的に取り組む能力を身に着け、大学生活全体に必要な体力・コミュニケーション力・学力の基礎をつくる。

## 〔教養科目〕

現代社会における人文・社会・自然科学の必要性と基本知識を習得し、幅広い視野をもち、多角的な視点で思考する姿勢を身につける。

## 〔社会展開科目〕

久留米大学の基本理念に基づき、実践力養成を目的とし、講義と体験および実社会での応用力、地域と大学、医系と文系領域をつなぐ科目であり、個人と地域社会の持続的発展を支える力を育成する。

共通教育科目の構成と目的・到達目標・授業科目

| 分類     |             | 科目群  | 目的  | 到達目標   | 授業科目   |
|--------|-------------|--|---|--|--|
| 大学入門科目 | 基礎教育        |  | 高等学校での学びの補習を行い、大学での講義内容を理解する基礎学力をつける  | 各科目における高等学校レベルの学習内容をマスターする   | 基礎教育科目講座（国語）<br>基礎教育科目講座（数学）   |
|        | 初年次教育       |  | 大学教育へのスムーズな移行を図るために必要な学習方法の基礎を知る  | 新しい学習環境に適応して、主体的に学ぶための方法や技術を知り、大学で学ぶ姿勢を身につける   | 人文・社会科学の方法<br>人間関係トレーニング入門   |
| 基礎科目   | 外国語教育科目     | 英語・ドイツ語<br>フランス語・<br>中国語・韓国語<br>留学生日本語         | 言語教育を通じて多言語、多文化が併存する世界において学生のグローバルコンピタンスを育成し、持続可能な地域発展に貢献できるようにすること   | 相互につながった今日の社会において、自立した一員となって活躍できるよう、コミュニケーションツールとしての外国語運用能力を育成する。自他の文化を理解し尊重する態度を育み、地域文化への関心を高める。生涯にわたって他者と協同し、自己開発・自己実現を達成するための基礎づくりを支援する           | 英語；コア（プレ初級・初・プレ中・中・上級）、英語スポークン・インタラクション、英語オプション（導入・発展）、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・留学生日本語；各ⅠⅡ、中国語・韓国語インテンシブ                               |
|        | 健康・スポーツ科学科目 | 健康・スポーツ科学関連講義                                  | 身体や健康・スポーツの知を再構築する  | 身体の構造と機能、運動発現の仕組み、運動・トレーニングによる適応身体について説明できる。運動やスポーツを安全に行うための注意点、健康についての理解、健康維持のための生活習慣について説明できる等   | スポーツ科学概論、スポーツ文化論、健康教育概論、食と健康、栄養と健康   |
|        |             | 健康・スポーツ科学関連実習                                  | 自身の身体についての気づきを実感する  | 自分の能力及び目的に応じたトレーニング計画を立案できる。自分の身体と運動能力、健康度を客観的な視点から実感し、説明できる等  | スポーツ科学実習、健康科学実習  |
|        |             | 健康・スポーツ科学関連実技                                  | 身体を自由に動かし、健康・スポーツを楽しむ経験をする  | 各種スポーツの特性、ルールおよびマナーが説明できる。他の参加者と協力しながら、安全に各種スポーツの実践と試合ができる等  | スポーツ、スポーツレクリエーション  |
|        | 情報教育科目      | ITリテラシー  | 情報取得の方法と情報活用に関するマナーや基礎知識を学び、情報処理技術を習得し、自分の意見としてまとめ、発信する能力を身につける   | 図書・雑誌、インターネットや各種メディアなどの情報源の所在を知り、効果的に情報検索し、自分の目的に適合するように使用できる。コンピュータのハード・ソフトの基本操作技術を習得し、論理的考えに基づく情報処理能力をもつ。情報使用や他者への情報発信に関するルールを守り、自分の意見を適切に発信できる    | 文献調査法（文・人・経）、コンピュータ基礎（文・人・経）、基礎情報教育（人）、応用情報教育（人）、インターネット演習（文・人・経）、基礎情報処理Ⅰ、Ⅱ（法）、情報処理入門（商）、コンピュータ概論Ⅰ、Ⅱ（文）<br>データサイエンス概論、データサイエンス実践 |
| 教養科目   | 自然科学        | 自然の現象の中にある原因と結果、その数理的構造などを理解する。                | 自然科学の各分野の基礎知識を学び、自然現象についてそれぞれの視角から捉えることができる。数理の世界に関心をもち、社会事象を科学的に考察できる。   | 数学Ⅰ、Ⅱ、物理学、地学Ⅰ、Ⅱ、生物学、統計学Ⅰ、Ⅱ、環境科学Ⅰ、Ⅱ   |  |
|        | 人文科学        | 人間の思想や生きることを探求し、文学や芸術などを通して学ぶ                  | 文献を読み、人間の本性について考える力を養う。文学を理解する力を深め、自分の思考の幅を広げる  | 論理学Ⅰ、Ⅱ、哲学Ⅰ、Ⅱ、日本文学、美術Ⅰ、Ⅱ、日本史学、朝鮮史学、中国史学、西洋史学Ⅰ、Ⅱ、文化人類学Ⅰ、Ⅱ、人文地理学Ⅰ、Ⅱ、東アジア文化論Ⅰ、Ⅱ、日本の歴史文化、日本文化論Ⅰ、Ⅱ、  |  |
|        | 社会科学        | 社会の現実を正しく理解するための基礎知識を身につける。                    | 社会を歴史的・構造的に理解する。社会動向について政治や経済など各分野の視点から分析すると同時にそれらを総合的に考察できる。   | 法学Ⅰ、Ⅱ、日本国憲法（人）、経済学Ⅰ、Ⅱ、政治学Ⅰ、Ⅱ、社会学、社会学Ⅰ、Ⅱ、心理学、心理学概論Ⅰ、Ⅱ、日本の政治経済Ⅰ、Ⅱ、ジャーナリズム論Ⅰ、Ⅱ、日本の文化と経営Ⅰ、Ⅱ  |  |
| 社会展開科目 | キャリア教育      | 一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要となる能力・態度を育成する             | 自らキャリアプランを作成することができる。社会・職業への理解を深めることができる。論理的な思考と文章表現のスキルを習得する。社会で他者と良い関係を築くためにコミュニケーション能力を身につける。自分の能力を発揮できるプレゼンテーション技術を習得する | 大学とキャリア、社会とキャリア、仕事とキャリア、キャリア・フィールドワーク、キャリア・プロジェクト、インターンシップ、グローバル・キャリア、ディベート、キャリア特講、判断推理、数的推理、応用判断推理、応用数的推理、公共特別演習Ⅰ、Ⅱ、公共特講Ⅰ、Ⅱ（経済系）、アカデミックサポーター養成講座Ⅰ、Ⅱ |  |
|        | 地域学         | 久留米・筑後圏域の文化的価値を知り、地域に愛着をもち、その発展に貢献できる実践力を身につける | 久留米・筑後の歴史・文化・産業などを、地域の人や体験から学び、それらについて説明できる。地域が抱える現代社会の諸問題解決について、自分の考えを提案できる  | 久留米学（歴史と環境）（文化と社会）、久留米・筑後体験演習、地域学演習Ⅰ、Ⅱ、地域連携実践演習、地域連携特講（単位互換科目）、地域探究アクトⅡ（単位互換科目）、地域体験演習   |  |
|        | 医療と社会       | 学際的視点から医療と社会を捉え、人間性を育成する                       | 人間が生きる本質について、現実的な視点と倫理観、ヒューマニティを身につける   | 人権入門、いのちの対話、いのちの倫理、職業の倫理、環境の倫理、みまもりし   |  |

## 基礎科目の教育方針

|      |             |   |
|------|-------------|---|
| 基礎科目 | 外国語教育科目     | <p>外国語教育の目的は、言語教育を通じて多言語、多文化が併存する世界において学生のグローバルコンピタンスを育成し、持続可能な地域発展に貢献できるようにすることである。その際、次の諸点を教育目標として重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.相互につながった今日の社会において、自立した一員となって活躍できるよう、コミュニケーションツールとしての外国語運用能力を育成する。</li><li>2.自他の文化を理解し尊重する態度を育み、地域文化への関心を高める。</li><li>3.生涯にわたって他者と協同し、自己開発・自己実現を達成するための基礎づくりを支援する。</li></ol> <p>* 共通教育が人間教育を中心に展開されるべきと考えている。</p>  |
|      | 健康・スポーツ科学科目 | <p>健康・スポーツ科学関連科目（実技・実習・講義）は、身体や健康・スポーツに関する知の再構築と身体機能及び健康の保持・増進を目的としている。</p> <p>講義で身体や健康・スポーツの知を再構築し、実習で自身の身体について実感し、実技では身体を動かし楽しむ。</p> <p>これらの教育経験は、社会の一員として自立・成熟し、可塑性を持つ自身を作り上げる重要な時期としての大学において欠くことはできない。</p> <p>健康・スポーツ科学関連科目は、授業内容を吟味し十分な時間をかけて受講することが可能となるようにカリキュラムを作成しており、実技・実習・講義の全てを受講してもらいたい。特に実技は、運動経験の維持という意味から、大学4年間のいずれの時期においても受講を継続してほしい。</p> <p>* 共通教育目的は人間力を高めることと考えている。</p>   |
|      | 情報教育科目      | <p>情報教育科目は、学生が自分の課題を思考し、必要な情報源の所在を知り、情報活用に関するマナーを身に着けたうえで、コンピュータのハード・ソフトの操作技術を習得し、自分の意見を発信できることを目的としている。そのことを通して情報化社会に生きるためのコミュニケーションツールをもつ実践的人材の育成を行う。</p> <p>情報教育の基本的内容と教育方針は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. コンピュータの基本知識、その応用と限界、社会における位置づけを理解する。</li><li>2 図書・雑誌、インターネットや各種メディアにおける情報の所在を知り、効率的かつ効果的に検索し活用する技術を習得する。</li><li>3. 収集した各種情報やインターネットを使用するにあたってのルールやモラルを身に着ける。</li><li>4. ソフトウェアを使用した情報処理技術を学び、論理的考えに基づく活用を行う。</li><li>5. 修得したさまざまな情報をもとに自分の意見としてまとめ、適切な方法で発信するための技術を身に着ける。</li></ol> |

## 共通教育で育成する力と科目群の対応

| 科目群<br>育成力 | 大学入門<br>科目 | 基礎科目        |                |            | 教養科目   | 社会展開<br>科目 |
|------------|------------|-------------|----------------|------------|--------|------------|
|            |            | 外国語<br>教育科目 | 健康スポーツ<br>科学科目 | 情報教育<br>科目 |        |            |
| 知る力        | 特に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 行動する力      | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 学修基礎力      | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| コミュニケーション力 | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 共感的理解力     | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 自己統制力      | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 思考する力      | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 実践力        | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |
| 社会で生きる力    | 強に関連する     | 強に関連する      | 強に関連する         | 強に関連する     | 強に関連する | 強に関連する     |



特に関連する



強に関連する



関連する

### 履修登録時の留意点

共通科目を履修登録する際に次の諸点に留意してください。

#### (1) 共通教育の科目区分が学部卒業要件区分と異なる場合があること

共通教育の科目区分は一般的基礎学力を習得する目安として示しています。専門教育の分野によっては最低限必要とされる一般的基礎学力が異なるので、共通教育の卒業要件にも違いが出てきます。所属する学部・学科の卒業要件を確認して履修計画を立てて下さい。

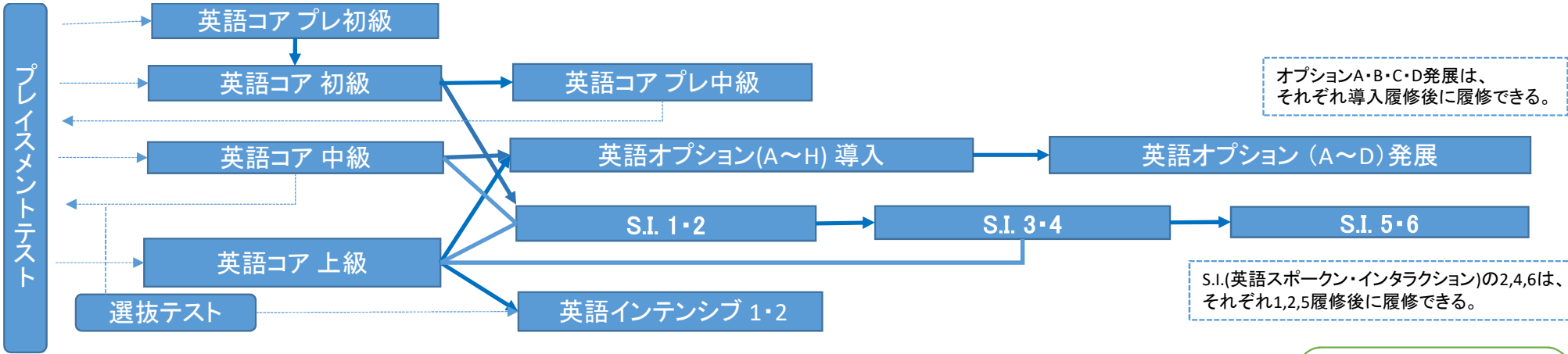
#### (2) 共通教育科目の学部での開講状況や履修条件に違いがあること

共通教育科目は学部横断的に開設されていますが、特定の学部では開講されないことがあります。また開講されていても年間履修登録単位数の制限がある場合や卒業要件単位数の含まれない場合もあります。

#### (3) 年度により開講されない場合があること

年度によっては担当の都合で開講されない場合があります。また履修希望者が非常に少ない場合にも休講となります。

英語



オプションA・B・C・D発展は、それぞれ導入履修後に履修できる。

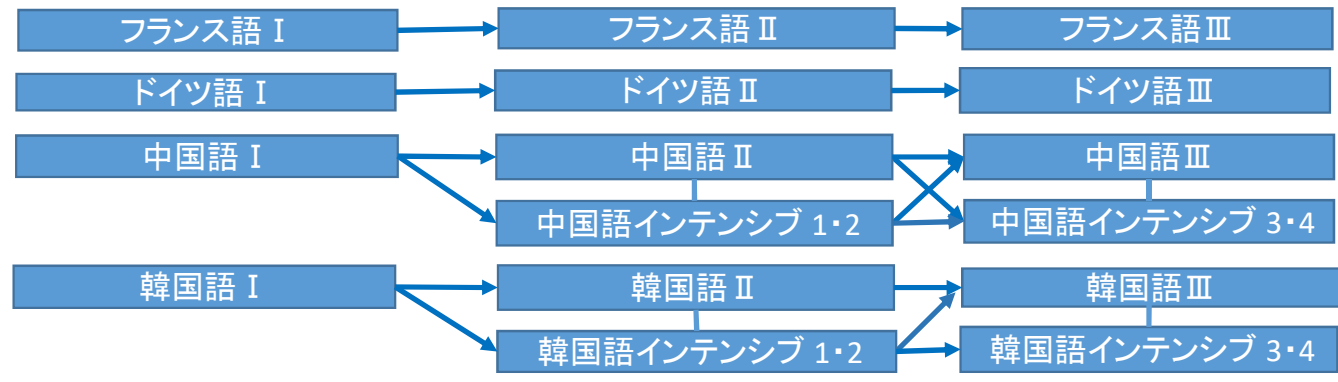
S.I.(英語スピークン・インタラクシオン)の2,4,6は、それぞれ1,2,5履修後に履修できる。

- 履修順序
- 同時履修可
- - - 習熟度評価

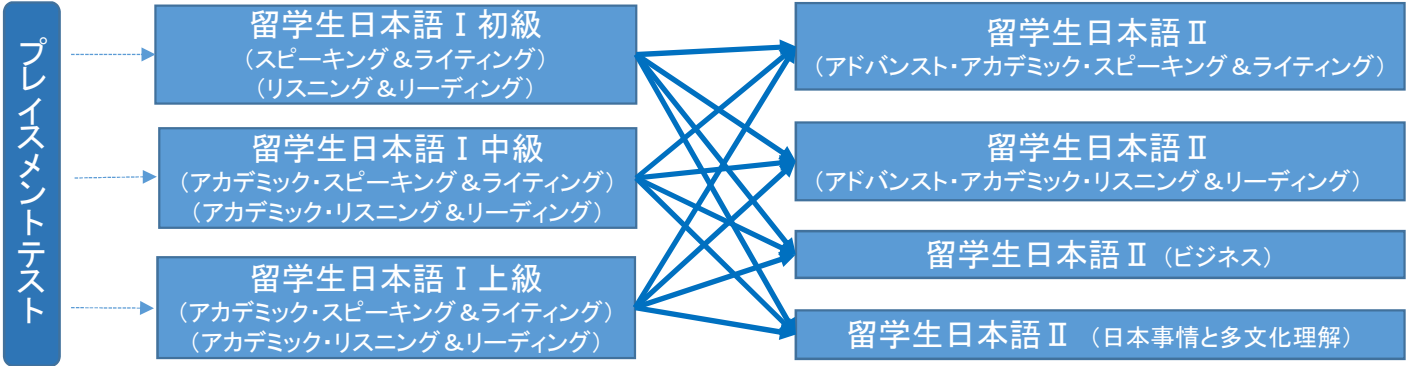
中国語インテンシブの2,4は、それぞれ1,3または中国語Ⅱ前期履修後に履修できる。

韓国語インテンシブの2,4は、それぞれ1,3履修後に履修できる。

初修外国語



留学生日本語



講義

実習

実技

からだとスポーツを知る

スポーツ文化概論

スポーツ科学実習

スポーツ

スポーツ科学概論

からだと健康を知る

健康教育概論

健康科学実習

スポーツレクリエーション

食と健康

栄養と健康

